

別紙

事業評価総括表

単位：円

番号	措置名	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に要した経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る 整備、維持補修又は 維持運営等措置	出雲市	3,907,440円	3,850,000円	

(備考) 事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること

・事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称																					
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	電源立地地域対策交付金事業 林道向名線落石対策工事																					
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		出雲市																					
交付金事業実施場所		出雲市乙立町地内																					
交付金事業の概要	<p>林道向名線は、一級河川神戸川左岸の殿川内集落と右岸の向名集落を繋ぐ、総延長2,340mの林道です。集落間を連結する主要な生活道として昭和35年に開設され、現在では林業施行する人や通勤通学等地域にとって大切な路線となっています。</p> <p>林道開設時は段丘崖を切土として整備し、転石などは見られませんでした。その後の気象等による変化もあり、現在では斜面に比較的大きな転石・浮石群が点在するとともに、ここ数年は毎年数回、林道へこぼし大にもなる落石が発生しており、けが人は出ていないものの、交通に支障を及ぼしている状況です。</p> <p>落石は、左岸の（A工区）80m、右岸の（B工区）440mにおいて確認されています。この内落石発生頻度の高いA工区内の38m、B工区内の48mについては、年次的に落石対策を実施する計画です。昨年度から整備しており、A工区の14.3mを整備しました。本年度は、昨年度に引き続き、特に落石が頻発し地元要望が強い、A工区のA箇所11.3mを集中的に整備します。</p> <p>工事延長L=11.3m、現場吹付法砕工 A=68.5㎡</p> <p>A工区のB箇所については、亀裂の発達により岩盤がはく離しやすく緊急の高い状況です。しかし、落石発生源が限定的でかつ法面と実走行帯に2m程度と余裕があります。</p> <p>&lt;全体計画&gt;</p> <table border="1" data-bbox="584 818 1458 1007"> <thead> <tr> <th>工区・箇所</th> <th>延長</th> <th>工事内容</th> <th>施工予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A工区 A箇所</td> <td>L=25.6m</td> <td>現場吹付法砕工A=154.9㎡</td> <td>H28-29</td> </tr> <tr> <td>B箇所</td> <td>L=11.6m</td> <td>覆式落石防護網工A=108.0㎡</td> <td>H30以降</td> </tr> <tr> <td>B工区</td> <td>L=48.0m</td> <td>ホケット式落石防護網工A=416.0㎡</td> <td>H30以降</td> </tr> <tr> <td>全体計画</td> <td>L=85.2m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			工区・箇所	延長	工事内容	施工予定	A工区 A箇所	L=25.6m	現場吹付法砕工A=154.9㎡	H28-29	B箇所	L=11.6m	覆式落石防護網工A=108.0㎡	H30以降	B工区	L=48.0m	ホケット式落石防護網工A=416.0㎡	H30以降	全体計画	L=85.2m		
工区・箇所	延長	工事内容	施工予定																				
A工区 A箇所	L=25.6m	現場吹付法砕工A=154.9㎡	H28-29																				
B箇所	L=11.6m	覆式落石防護網工A=108.0㎡	H30以降																				
B工区	L=48.0m	ホケット式落石防護網工A=416.0㎡	H30以降																				
全体計画	L=85.2m																						
総事業費（円）	3,907,440円	交付金充当額（円）	3,850,000円																				

<p>交付金事業の成果目標</p>	<p><b>【現状及び問題点】</b>  A工区のA箇所では、露岩の上に段丘砂礫が堆積しており、50cm未満の円礫が多く含まれ、法面から突出した円礫が全体に分布しています。法面の浸食が進んでおり、突出した礫の剥離による落石が確認されています。また、段丘砂礫と基盤岩との境目は、浸透地下水の流下経路になっており、湧水等に起因した崩壊が発生しています。  このままでは、礫の剥離による落石や法面崩壊がさらに進み、林業施行する人や通勤通学への通行の支障はもとより人的被害が懸念されます。万が一、大規模な崩落等が発生した場合には、すれ違うことも厳しい狭隘な道路を迂回することとなり、交通の混乱を招く恐れがあります。</p> <p><b>【工法選定】</b>  A工区のA箇所では、開設時に切土した法面下部で岩盤の風化及び段丘砂礫の露頭により、落石発生源となっていますが、法面上部には落石源は認められません。  落石の発生機構は、岩盤露頭部の亀裂の発達による剥離や段丘砂礫層の浸食に伴う礫・玉石の落下が考えられ、落石源の分布が限定的であることから、落石予防工のみでの対応が可能と考えられます。  対策工法について、落石源の法面下部のみに限定することとし、最も効果的な対策工法の除去工2案を比較検討し、施工性に優れた法枠工を採用しています。  &lt;採用案 - 案1 &gt;  法枠工  ・段丘砂礫や崖錐堆積物の切土法面勾配を急勾配することが可能  ・不安定岩塊の除去が可能  &lt;不採用案 - 案2 &gt;  安定勾配による切土工  ・道路の移設や土地の提供が必要  （斜面上部の道路まで法切が必要 隣接水田にも影響）  ・不安定岩塊の除去が可能  昨年度の整備で法枠工を実施しており、実施後の落石や崩壊などの痕跡は見られないため、現地に即している工法と判断しています。</p> <p><b>【成果目標】</b>  過年度には、発電用施設の設置により恩恵を受けている出雲市佐田町で落石対策を実施しています。今回の対象地域同様に集落間を連結する生活道として利用されており、落石対策は安全で安心なまちづくり対策の一環を担っています。  一方、林道向名線では落石発生源となった斜面が増えてきており、殿川内及び向名集落住民からは林道の安全性確保が求められています。本対策工事の実施で地域住民の安全安心な通行を確保し、生活道路に対する満足度向上を目指すことにより、地域住民の電源開発への理解・協力が得られます。また、当事業の実施により整備進捗が図られていることを看板設置を行い広く地域住民に周知することで、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資すると考えられます。</p>
<p>交付金事業の成果指標</p>	<p>上記、成果目標を達成するため対策工事を早急に実施します。重要工区であるA工区80mのうち、未整備38mにおいて平成29年度事業完了後の整備進捗率68.4%を達成を確認します。地域住民の安全安心な生活道路に対する満足度100%を目標とし、A工区の対策工事完了後に沿線住民にアンケート調査を実施し、満足度の達成状況について確認します。</p>

交付金事業の成果及び評価	平成29年度事業は計画どおり完了し、重要工区であるA工区完成後の整備進捗率68.8%の達成を確認しました。 ○工事延長L=11.3m、現場吹付法枠工A=68.5㎡
--------------	--

交付金事業の契約の概要			
契約の目的	契約の方法等	契約の相手方	契約金額（円）
落石対策工事	指名競争入札	今岡工業(株)	3,907,440
計			
成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無	無	交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度	H33

(備考)

- (1) 事業ごとに作成すること。
- (2) 番号の欄は、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
- (3) 交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第1条(目的)を踏まえて具体的に記載すること。
- (4) 交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。
- (5) 交付金事業の成果及び評価の欄は、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数値を用いて記載すること。
- (6) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。
- (7) 成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、その名称及び構成員等を記載すること。